

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連市のホームページより

大連空港年間旅客取扱量延べ 955 万人突破

2009年12月29日までに、大連空港年間旅客取扱量が延べ955万人を突破し、昨年に比べ16.5%の成長を遂げた。大連空港国際旅客取扱量は5年連続で全国空港の第4位を保っている。2010年までに旅客取扱量は延べ1000万人の大台を突破し、国内千万空港の一員になり、2020年までに年間旅客取扱量は延べ2000万人に達する見込みで、一躍世界ベスト100空港の50位に上りつめる。

大連新空港は4本の滑走路を建設計画で、吞吐量は3500万人から4000万人に達する見込みだ。

大連空港（大連周水子国際空港）に入る航空路線は、国内線84路線、国際線46路線あり、旅客数は2008年の統計で中国133空港中16位。国際旅客だけ見れば4位であり、北京、上海の2大都市の空港に次いで、外国人が数多く利用する空港と言えるだろう。

この理由はもちろん地理的条件が大きく、韓国・ソウルまで1時間、日本へは、福岡2時間、関西2時間半、東京3時間という便利さで、この2カ国の外国人がほとんどをしめる。もちろん、進出している企業も当然、日本・韓国の企業が大多数だ。

日本の空港の旅客数は、福岡空港が1800万人程度、中部国際空港が1100万人程度。大連の空港はそれよりも利用者が少ないが、鹿児島空港600万人程度よりも遥かに多い。

大連では、2000年ぐらいから、近い将来、空港能力が足りなくなることを予測し、新空港の建設が取りざたされたが、まだ実施段階には至っていない。現在は、当面の航空需要に対応するための拡張工事を2011年まで行い、駐機スペースや貨物ターミナル、旅客ターミナルの拡大によって、旅客利用者1600万人～2000万人、貨物の取扱量32～45万トン、着陸回数が13万～16万回まで飛行場の能力をアップさせる。

今後の需要予測では、2020年までには2000万人に達すると考えられており、新空港の建設については、今後の航空需要の増加を見ながら、いつ建設に着手するのか決定するようだ。航空関係者の間では、2015年以後になるのではないかと見られている。

新空港は、計画地が大連市内から1時間程度の金州区で、区内のどこかは2転、3転しているようで、はっきりとした場所は決まっていらないように感じる。中国らしいと言えばそうだが、様々な利権がからむ大規模公共事業は、実施直前に発表される場合が多い。

空港の計画規模は、滑走路4本で年間3500万人から4000万人の旅客需要に対応するもので、現在の上海浦東空港並みの規模。用地の取得について補償などの手間があまりかからない中国では、大は小を兼ねるの計画が一般的で、実施するにあたって予算などを見ながら、変更される場合が多い。

新空港の建設がいつ始まり、どのような規模となるのかは、5点一線と呼ばれていた「遼寧省沿海経済地域発展計画」による経済発展の進捗度によって決められるだろう。

逆に、大連の新空港は、この発展計画の試金石となることは間違いない。何かと情報入手が難しい中国だが、大連の新空港建設だけに注目していれば大連の発展速度が、簡単に理解できるかもしれない。